

武蔵野学院大学・武蔵野短期大学

公開講座

テーマ

科学としてのコミュニケーション

～多面的分野からの他者理解～

英文学ア・ラ・カルト

～シェイクスピアから J. K. ローリングまで～

武蔵野学院大学大学院国際コミュニケーション研究科

武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部

博士(英文学)・教授 佐々木 隆

資料1	文学と科学関連年表	2
資料2	参考資料	3
資料3	パワーポイント資料	6

2008年10月4日(土)

資料1 文学と科学関連年表 (文学関係は黒字、科学関係は青字)

- 1492年 コロンブス、アメリカ新大陸発見
- 1530年 コペルニクス、地動説を唱える
- 1564年～1616年 シェイクスピアの時代
- 1712年 トーマス・ニューコメン、蒸気機関を製作 (ピストンを利用)
- 1726年 ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』 (~1727年)
- 1769年 リチャード・アークライト、水力紡績機を開発
- 1769年 ジェームズ・ワット、蒸気機関をさらに改良 (石炭の時代)
- 1785年 エドモンド・カートライト、蒸気機関を利用して力織機を製作
- 1807年 フルトン、蒸気船を発明
- 1818年 メアリ・シェリー『フランケンシュタイン』
- 1834年 チャールズ・ディケンズ『クリスマス・キャロル』
- 1859年 チャールズ・ダーウィン『種の起源』
- 1836年 ロンドンで、世界初の地下鉄
- 1865年 メンデルの法則
- 1886年 スティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』
- 1895年 H. G. ウェルズ『タイム・マシン』
- 1896年 H. G. ウェルズ『ドクター・モローの島』
- 1897年 H. G. ウェルズ『透明人間』
- 1897年 ブラム・ストーカー『ドラキュラ』
- 1898年 H. G. ウェルズ『宇宙大戦争』
- 1900年 フロイト『夢判断』
- 1903年 ライト兄弟、世界初の動力飛行に成功
- 1904年 ジェームズ・バリー『ピーター・パン』
- 1905年 アインシュタイン「特殊相対性理論」
- 1920年 カレル・チャペック『R. U. R』(「ロボット」という言葉が誕生)
- 1927年 リンドバーク、パリ～ニューヨーク。大西洋横断、単独無着陸
- 1949年 ジョージ・オーウェル『1984』
- 1950年 アイザック・アシモフ『われはロボット』
- 1950年 C.S.ルイス『ナルニア国物語』 (~1956年)
- 1951年 アーサー・C. クラーク『宇宙への序曲』
- 1954年 トールキン『ロード・オブ・ザ・リング』 (~1955年)
- 1966年 ロアルド・ダール『チョコレート工場の秘密』
- 1968年 アーサー・C. クラーク『2001年宇宙の旅』
- 1969年 アポロ11号。人類初の月着陸。
- 1977年 アップル・コンピュータ社設立
- 1981年 マイクロ・ソフト社設立
- 1991年 ヨーロッパ原子核共同研究所がWorld Wide Webを開発
- 1992年 日本で商用ネットワークサービス開始。インターネット時代の到来。
- 1997年 J.K.ローリング『ハリー・ポッター』シリーズ (~2007年)
- 1997年 ダイアナ・ウィン・ジョーンズ『魔法使いハウルと火の悪魔』

資料2 参考資料

1 映画化作品

ジョナサン・スィフト『ガリヴァ旅行記』(1726)

ジャック・シャー監督『ガリヴァ旅行記』(1960)

メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』(1818)

ジェイムズ・ホエール監督『フランケンシュタイン』(1931)

ジェイムズ・ホエール監督『フランケンシュタインの花嫁』(1935)

ケネス・ブラナー監督『フランケンシュタイン』(1994)

スティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』(1886)

ルーベン・マムーリアン監督『ジキル博士とハイド氏』(1932)

ヴィクター・フレミング監督『ジキル博士とハイド氏』(1941)

ジェラルド・キコワース監督『ジキルとハイド』(1988)

モーリス・フィリップス監督『ジキル博士とハイド氏』(2002)

H. G. ウェルズ『タイム・マシン』(1897)

ジョージ・バル監督『タイム・マシン』(1959)

サイモン・ウェルズ、ゴア・ヴァービンスキー監督『タイム・マシン』(2002)

ブラム・ストカー『ドラキュラ』(1898)

トッド・ブラウニング監督『魔人ドラキュラ』(1931)

テレンス・フィッシャー監督『吸血鬼ドラキュラ』(1957)

フランシス・コッポラ監督『ドラキュラ』(1992)

H. G. ウェルズ『宇宙戦争』(1898)

バイロン・ハスキンス監督『宇宙戦争』(1953)

スティーヴン・スピルバーグ監督『宇宙戦争』(2005)

デヴィッド・マイケル・ラット監督『宇宙戦争』(2005)

ジェームズ・バリー『ピーター・パン』(1904)

ハーバート・ブレノン監督『ピーター・パン』(1924)

ハミルトン・ラスケ、クライド・ジェロニミ、ウィルフレッド・ジャクソン監督『ピーター・パン』(1953)

P. J. ホーガン監督『ピーター・パン』(2003)

*参考映画

スティーヴン・スピルバーグ監督『フック』(1991)

マーク・フォスター監督『ネバーランド』(2004)

クライブ・ステーブルス・ルイス『ナルニア国物語』(1950-1956)

(『ライオンと魔女』1950)

アンドリュー・アダムソン監督『ナルニア国物語／第1章 ライオンと魔女』(2005)

トールキン『指輪物語』(1954-1955)

ラルフ・バクシ監督『指輪物語』(1978)

ピーター・ジャクソン監督『ロード・オブ・ザ・リング／旅の仲間』(2001)

ピーター・ジャクソン監督『ロード・オブ・ザ・リング／ふたつの塔』
(2002)

ピーター・ジャクソン監督『ロード・オブ・ザ・リング／王の帰還』(2003)

ロアルド・ダール『チョコレート工場の秘密』(1966)

メル・スチュアート監督『夢のチョコレート工場』(1971)

ティム・バートン監督『チャーリーとチョコレート工場』(2005)

ダイアナ・ウィン・ジョーンズ『魔法使いハウルと火の悪魔』(1986)

宮崎駿監督『ハウルの動く城』(2004)

J. K. ローリング『ハリー・ポッターと賢者の石』(1997)

J. K. ローリング『ハリー・ポッターと秘密の部屋』(1998)

J. K. ローリング『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』(1999)

J. K. ローリング『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』(2000)

J. K. ローリング『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』(2003)

J. K. ローリング『ハリー・ポッターと謎のプリンス』(2005)

J. K. ローリング『ハリー・ポッターと死の秘宝』(2007)

クリス・コロンバス監督『ハリー・ポッターと賢者の石』(2001)

クリス・コロンバス監督『ハリー・ポッターと秘密の部屋』(2002)

アルフォンス・キュアロン監督『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』
(2004)

マイケル・ニューウェル監督『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』(2005)

デヴィッド・イエーツ監督『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』(2007)

2 参考文献

英米文学辞典・英米文学史

斎藤勇編『研究社英米文学辞典』(研究社、1937年)

『講座英米文学史』(13巻)(大修館書店、1971年9月～2001年4月)

須藤暢雄、繁尾久『教養としての英米文学』(南雲堂、1975年12月)

田島俊雄、中島斉、松本唯史『アメリカ文学案内』(朝日出版社、1977年5月)

鈴木幸夫編『英米文学名句名言辞典』(東京堂出版、1986年1月)

野町二、岡本通『英米文学ハンドブック』(開文堂出版、1987年3月、増補第3訂版)

ヘンドリックソン／横山徳爾訳『英米文学エピソード事典』(北星堂書店、1988年4月)

荒竹出版編集部編『年表アメリカ文学史』(荒竹出版、1988年6月)
荒竹出版編集部編『年表イギリス文学史』(荒竹出版、1989年2月)
深沢俊、塚野千晶共編『イギリス文学小事典』(北星堂書店、1989年5月)
笠原勝朗『英米文学翻訳書目』(沖積舎、1991年3月)
鈴木幸夫編『英米文学辞典』(東京堂出版、1991年11月、第5版)
D. L. Kirkpatrick 編／岩元巖、酒本雅之監修『アメリカ文学作家作品事典』(本の友社、1991年12月)
定松正他編『イギリス文学地名事典』(研究社出版、1992年8月)
渡辺恵子編『英米文学の名作を知る本』(研究社出版、1997年2月)
E. D. ハーシュ他／中村保男訳『アメリカ教養辞典』(丸善、1997年3月)
船戸英夫、中野記偉編著『じてん・英米のキャラクター』(研究社、1998年8月)
定松正、本多英明編著『英米児童文学辞典』(研究社、2001年4月)
ミルワード／小泉博一訳『童話の国イギリス』(中央公論新社、2001年10月)
野町二、荒井良雄編『イギリス文学案内』(朝日出版社、2002年9月)
上田和夫編『イギリス文学辞典』(研究社、2004年1月)

科学と文学

寺田寅彦『科学と文学』(岩波書店、1933年9月)
岡邦雄『科学と文学』(第三評論集)(三笠書房、1936年6月)
後藤末雄『科学と文学』(千歳書房、1943年4月)
湯川秀樹、瀬原退蔵『科学と文学』(湯川秀樹、瀬原退蔵対談)(白井書房、1949年1月)
桶谷繁雄『フライブルグの宿 科学と文学』(朝日新聞社、1954年)
渡辺正雄編『科学と英文学』(研究社出版、1962年1月)
飯島衛『科学と文学の間』(第三文明社、1972年10月)
角川源義『古典研究Ⅲ』(文学評論)(角川書店、1988年4月)
大野順一先生古稀記念論文集刊行会編『日本文芸思潮史論叢』(ぺりかん社、2001年3月)
戸坂潤 / 尾関周二編『科学と文学の架橋』(燈影舎、2001年1月)
猪木武徳『文芸にあらわれた日本の近代 社会科学と文学のあいだ』(有斐閣、2004年10月)
矢野昌邦『加藤周一の思想・序説 雑種文化論・科学と文学・星董派論争』(かもがわ出版、2005年12月)
川島隆太、藤原智美『脳の力こぶ 科学と文学による新「学問のすゝめ」』(集英社、2006年5月)

公開講座

科学としてのコミュニケーション～多面的
分野からの他者理解



英文学ア・ラ・カルト
～シェイクスピアから

J. K. ローリングまで～

2008年10月4日 佐々木 隆



配付の冊子について

参考にして下さい。あとから使用で
きるように、参考文献なども掲載いた
しました。講座中はできるだけパワー
ポイントご覧下さい。

なお、私のことは、最終ページ掲載
のホームページアドレスでご覧下さい。

「文学」とは何か

「文学」は「芸術」のひとつ。では芸術
とは一体何でしょうか。芸術にはもち
ろん、文学、演劇、絵画、映画等すべ
てがこれらに含まれます。「芸術」とは
「ミメシス」(模倣)といわれています。
これはアリストテレスの考え方です。

「ミメシス」とは

芸術がミメシスなら、芸術は一体
何を模倣しているのでしょうか。この
世の中の諸現象・活動を人間が再
現するということになるかもしれま
せん。

文学、演劇、映画とは

文学、演劇、映画とは一体何をミメ
シス(模倣)していることになるので
しょうか。シェイクスピアは演劇につ
いては、*mirror upto nature*、つまり
「自然」に対して鏡を掲げると言ってい
ます。

Natureとは何か

いろいろな意味があります。「自然」だ
けではなく、物事の「本質」といった意
味もあります。「自然」という日本語に
もたくさんの意味があります。

mirror upto nature

「自然」とは単純に草や木、植物
のことではありません。人間を取り
巻く、環境、社会、時代もすべて
*nature*ということになります。「人
生」もまたそのひとつ。

「人生」の再現

文学、演劇、映画、ドラマ、アニ
メなどそこに描かれているものは、
「人生」に関わるものが多いので
はないでしょうか。こうしたもの
を通して「人生」の疑似体験、あ
るいは違った人生に対して感情移
入していませんか？

「文学」の元祖は口承

もともと文学は口承から発生し、
昔から言い伝えられたものを記録
することから始まりました。昔話、
言い伝え、伝説等。言葉から文字
へ。世代を超えて、受け継がれる。

「文学」は時代を越える

言葉から文字となった文学は一つの地域や時代を越え、伝えられる。文学には時代背景、社会背景、文化背景など、様々な要素が含まれている。

本日のキーワード

「文学」は芸術の一つである。
「芸術」はミメシス（模倣）である。
「文学」は空間（地域）と時間（時代）を越える。そこには豊かな想像力が。
科学の時代に「文学」は何ができるか？

「科学」と「文学」

科学は理数系で文学は文学系？
科学とは何かを考えると、科学と文学には密接な関係があることがわかります。では、科学の定義を見てみましょう！

科学とは

観察や実験など経験の手続きによって実証された法則的・体系的知識。また、個別の専門分野に分かれた学問の総称（「広辞苑」第6版より）
自然科学が典型。人間科学もある。

科学は昔からあった

白魔術→いわゆる自然科学（自然現象）よいこと
黒魔術→いわゆる魔術（魔力によって行われる術。）わるいこと

科学の要素？

自然科学にとって、「地」「水」「火」「風」「雷」、さらには「大地」「海」「空」（「天空」）は基本的な要素。そして、人間。

「火」は人類の宝

神々の姿に似せて創造された人類に、「火」を伝えたと言われるのがプロメテウス。プロメテウスはゼウスの怒りを買う。「ギリシャ神話」より

英文学史を辿りながら「科学」と「文学」を考えてみよう

ドラゴン伝説は国を越え、文化を越え、存在する。英文学では「ヘオウルフ」に登場するクレンテルがこれにあたる。

完全ではないストーリーを埋め、映画化された。クレンテルは科学の力では説明できない。



キリスト教伝来以前 ケルト文化

当初の宗教は自然崇拝の多神教であり、ドルイドと呼ばれる神官がそれを司っていた

ケルトでは、動物はインスピレーションや魔力を与える存在として、人間と非常に密なる関係にあります。

日本の神道、神話に共通点が、、、

ケルト文化と動物

牡鹿は高い理想、大望、達成のシンボルです。異界への入り口を守る守護動物

火の象徴であるドラゴンは、コウモリのような翼と、とげのある尻尾（しっぽ）をもった伝説の動物

海馬（ウミウマ）は上半身が馬、下半身が魚の姿をした不思議な生き物で、月のシンボル
大空を羽ばたく雄々しい鷹の姿は、若さとたくましさの象徴です。ケルトでは、英雄神フランのシンボル。

成長するために脱皮をする蛇は、復活や再生の象徴。ケルトでは、英雄神フランのシンボルとされ、神聖な動物。

知恵と知識のシンボルであるフクロウ。神聖なる魔法の鳥。

白馬は神聖視され、王族を含め、高貴な身分の証明。

角はケルトのシンボルであるらせん状。ユニコーンは神聖、純潔、清純を表し、歌や詩、物語の中にも多く登場しました。ユニコーンという言葉の「Uni」は単一、「Corn」は「Y」を表す。

鮭は古くから、賢い魚のひとつとして尊敬される存在。知恵の源泉であり、過去や未来を見ることができる。

白鳥はその美しさから、彫刻のモチーフとして多く用いられ、ドルイドの儀式用の容器にも描かれている魔法の動物です

蝶は妖精であり、妖精界と人間界をつなぐ役目をします。また、ケルトでは、蝶は死者も表しています。

犬はふたつの側面を持ちます。ひとつは、人間と深い関係になり、親しみやすく、気品あふれる友人として保護者の役目をしてくれる面。もうひとつは、どう猛で、闇の世界に生きる動物としての側面です。

妖精は想像力の産物？

英文学の根底にはケルト文化の影響を強くみることができる。

妖精（フェアリー）は科学では説明ができない存在。

科学との関連を見てよう

1492年 コロンブス、アメリカ新大陸発見

過去の価値観との対立。地球は丸い！

フトレマイオスの天動説

1530年 コペルニクス、地動説を唱える

世界は旧秩序と新秩序が混在
地球は丸い、地球が太陽の周りを回っている。

天動説・地動説についていえば、天動説を主張したのはエジプトのプトレマイオスやギリシャのアリストテレスであり、地動説を発見したコペルニクス、ガリレイ、ケプラーは、いずれも熱心なクリスチャンでした。

新しい時代の息吹が、..

あのシェイクスピア（1564-1616）の時代は新しいものと古いものが混在する時代。天文学が進むものの、占星術や魔術もまだまだ一般民衆には根深いものが、..

シェイクスピア



ハムレットに登場する亡霊は重要な役割を果たす。

シェイクスピア 妖精が登場



『真夏の夜の夢』は人間の世界と妖精の王と女王の織りなす奇妙な喜劇。妖精パックも登場する。人間も妖精も同じ世界の住人。

シェイクスピア



フロストヒーローは人間でありながら、魔法をあやつる。妖精エアリエルを部下に。

スウィフトの作品



1726
~1727



価値観の変化と科学は関連があるのか？

科学と文学

19世紀（1800年代）の科学は文学の中にどのような形で入りこんできたのか？文学史と科学の関係を見てみよう。

どんな作品があるか見てみよう！

怪奇小説

「フランケンシュタイン」、
「ドラキュラ」はイギリスが生んだ文学です。ここには、科学VS宗教の問題が隠されています。

「フランケンシュタイン (1818)

メアリ・シェリーの怪奇小説。
スイスの科学者フランケンシュ
タインは、死体の断片をつなぎ
合わせて人造人間を作る。
生命とは何か？生命科学とは？

ディケンズ
「クリスマス・キャロル」(1834)

スクルージが、過去、現在、未
来のクリスマスを訪れる。魔法
の力？科学では説明できない。
タイムトラベル的などところがあ
る。

スティーヴンソン「ジキル
博士とハイド氏」(1886)

人間の心を科学の力で解き明か
そうとした時代の作品です。フ
ロイトの「夢判断」(1900)に
よって「無意識」という領域が
証明された。21世紀にこの考え
方は適用するか？

Science Fictionの行方

SF小説

「タイム・マシン」「宇宙大戦争」
「透明人間」「ドクター・モロー博士
の島」はイギリスのH.G.ウェルスが
書いた作品です。

「タイム・マシン」(1895)

アインシュタインの「特殊相対
理論」が発表されたのは1905
年。文学は科学を先行す
る？SF小説の元祖。
文学の新しい姿？



「ドクター・モローの島」
(1896)

DNAをテーマにした作品。動物が
人間へ。ダーウインの「種の起源」、
いわゆる進化論が発表されたのは、
1859年のこと。メンデル法則は
1865年のこと。

「透明人間」(1897)

人間にとって、あこがれの透明
人間。魔法から科学へ。黒魔術
と白魔術の融合？魔法と科学の
境目は今後どうなっていくのだ
ろうか。

フロム・ストカー「ドラキュラ」
(1897)

科学の時代に何故。
宗教VS科学？
木の杭、聖水は伝統的な方法
銀の弾丸は科学の力

ヴァン・ヘルシング『ドラキュ
ラ』で誕生したキャラクターだっ
た。



「宇宙大戦争」(1898)

未知なる宇宙へのあこがれ。宇宙人の存在は？

古きよき伝統 → 妖精
新しい科学の時代 → 宇宙人

未知なる存在VS人間



人類の夢 空を飛ぶ

ライト兄弟。1903年12月17日、世界初の動力飛行に成功する。



バリー「ピーター・パン」(1904)

妖精(ピーター・パン、ティンカー・ベル)

科学の時代の人間の想像力のあり方？科学は万能なのか？

ミニ情報

1920年にカレル・チャペックが「R. U. R.」(エル・ユー・エル)を発表。「ロボット」という言葉が使用される。この時は化学物質を加工して様々なパーツを作り、それを組み合わせた一種の人造人間。

カレル・チャペックはチェコソロヴァキア人。

大西洋横断

1927年5月20日~21日。リンドバーグはニューヨーク~パリ、単独無着陸飛行。

人類はついにあこがれの空へ。

政治の恐怖を予見した未来小説

ジョージ・オーウェル
「1984」(1949)

TVが監視するシステム。科学の力が全体主義を促進させる？

ミニ情報

アイザック・アシモフ(米)「われはロボット」(1950)で「ロボット工学三原則」が示される。

「ロボット工学の三原則」

第一条 ロボットは人間に危害を加えてはならない。また何も手を下さずに人間が危害を受けるのを黙視してはならない。

第二条 ロボットは人間の命令に従わなくてはならない。ただし第一条に反する命令はこの限りではない。

第三条 ロボットは自らの存在を護らなくてはならない。ただしそれは第一条、第二条に違反しない場合に限る。

C. S. ルイス「ナルニア国物語」(全7作) (1950~1956)



トールキンの作品
1954~1955年
魔法の力と人間の力
ケルト文化の影響



ロード・リング

ダール 1966年の作品



チョコレート工場
Charlie and the
Chocolate Factory
秘密

人類初の月着陸
1969年7月20日、アポロ
11号が人類初の月着陸。人類
は宇宙時代に入ります。かつて
は、SFであった宇宙ものは現
実のものに。

パソコンの時代が到来
1977年にアップル・コンピ
ュータ社設立
1981年にマイクロ・ソフト
社設立

インターネットの時代が到来
1991年 ヨーロッパ原子核
共同研究所 (CERN) が
World Wide Webを開発。
1992年 日本で商用ネット
ワークサービスが開始される。

J.K. ローリング
1997年~
2007年



ハリー・ポッターと
賢者の石


ダイアナ・ウィン・ジョーンズ
「ハウルの動く城」
の原作「魔法使い
ハウルと火の悪魔」
(1997)
宮崎駿監督が映画化



ハウルの動く城

New Age 到来
宇宙の時代
コンピュータの時代
インターネットの時代
人間の夢はどこへ...
妖精や魔法の力は...

チャールズ・チャップリン
「独裁者」
The Great Dictator (1940)
More than machinery,
we need humanity
私たちに必要なのは機械ではな
く、人間性なのだ。



新しい時代には新しい文学が

しかし、人間にとって必要な物
は何か？

チャップリンは言う。
「機械よりも人間性」が必要。

芸術とは

mirror upto nature
自然に対して鏡を掲げて
→時代に対して鏡を掲げて

現実・科学、文学・想像？
科学は想像から始まる？

文学は想像力が、

人間にとって大切なことは想像
力、イマジネーションを働かせ
ること。

科学も想像力を現実化させるよ
うとすることで始まった。

The End

ご静聴ありがとうございました。

資料作成者・講演者

佐々木 隆

2004年4月より武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部教授（現在に至る）。

2007年4月より武蔵野学院大学大学院国際コミュニケーション研究科教授（現在に至る）

博士（英文学）。大学院・大学でのおもな担当科目は「国際文化交流特殊講義」「国際文化交流特殊演習」「英米文学史」「英語科教育法IV」等。これまでに「英文学概論」「米文学概論」「西欧文化社会事情」「西欧文化事情I」の担当経験がある。

平成20年1月～9月の業績

共著・著書

『日本ワイルド総覧（増補版）』イーコン、平成20年2月

『「国際コミュニケーション」とは何か（増補資料編）』武蔵野学院大学佐々木隆研究室、平成20年3月

学術論文

「日本における『社会主義下における人間の魂』（『APIED』第12号、アピエ社、平成20年3月）

「演劇に見る伝統と継承の問題について—シェイクスピア劇上演を例にして」（『武蔵野学院大学日本総合研究所研究紀要』第5輯、平成20年3月）

「書誌から見た昭和時代（戦後）のワイルド受容—吉田健一を中心に—」（『日欧比較文化研究』第9号、平成20年4月）

『「国際コミュニケーション」とは何か—その定義をめぐって』（『武蔵野学院大学大学院研究紀要』第1輯、平成20年4月）

「〈連載研究コラム〉「ITと文学・教育・言語 W. Shakespeare の研究サイト」（『日本英語文化学会会報』第2号、平成20年6月）

私自身の詳しい履歴・研究業績・教育業績等については、ホームページにて公開しているのでご覧下さい。→ 佐々木隆研究室 <http://www.ssk.econfn.com>

発行日 2008年10月4日

発行所 武蔵野学院大学佐々木隆研究室

連絡先 <http://www.ssk.econfn.com>
ssk2000takashi@hotmail.com